

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
「やさしいっばい 汗いっばい にこにこ笑顔で 夢いっばい」 【知】一人一人の子どもの意欲を引き出し、問題解決に粘り強く取り組めるようにします。 【徳】多様性を尊重し、互いのよさを認め合う気持ちや規範意識の向上を図ります。 【体】安全や健康に気を付け、健やかな心と体を育みます。 【公】様々な人や地域との交流活動、体験活動などを通して、社会参画意識を育てます。 【開】自分自身を見つめ、よりよく生きるために学びに向かう力を育みます。	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
<自分づくりに関する力>	具体化した資質・能力 ○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢 ○様々な情報を活用・選択する力 ○地域を愛する気持ち

中期取組目標
○「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できるように、多様性を受け入れられる気持ちや態度を育てます。 ○学習内容の理解や学習の楽しさを実感できるように、教材研究・授業づくりを推進し学力の向上を図ります。 ○全教職員で全校の子どもを育てるために教職員間の共通理解を大事にし、相互理解・連携を深め「チーム力」を高めます。 ○同学年や異学年との交流、まちの人々とのふれ合いを通して、学校や地域を愛する気持ちや態度を育てます。 ○家庭・地域との連携、幼保小・小中の連携を推進し、社会及び保護者の信頼に応えた学校づくりに取り組みます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①児童の実態把握をしっかりと行い、実態に応じた指導実践を行う。②発達段階に応じ、学年内などで教科を担当する教科担任制を導入し、系統的で効果的な指導を行う。③少人数指導やTT指導、特別支援教室を活用し、家庭と協力をしながら、基礎基本の定着と確かな学力の向上を図る。
担当	研究推進部会

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
○学力の概要と要因の分析 学力・学習状況調査の結果から、標準化得点(市平均を100とした得点)を見ると、学校全体としては、国語は概ね平均以上と言えるが、算数は、平均を下回っていることが見受けられた。過去に「授業が分からない」「勉強が嫌い」と答えた児童の割合が高く課題となった。この経緯も踏まえ、今後も、子どもの活躍場面を意図的に設定し、達成感をもてるような授業展開を工夫していく必要がある。 ○経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含む) 学力は着実に市平均に近付いてきている。昨年度課題として挙げられた「授業に進んで取り組んでいる」という意識調査の項目では、約9割の子どもたちが意識できていることが見えてきた。その意欲を、「学習することが好き」という項目に反映できるよう、今後も学校組織として継続的に授業改善をし、学習の有用性、楽しさを感じられる授業を展開していく必要がある。	安心して意欲的に表現することができる子どもの育成
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ○材に対して自分から関わり、興味・関心を広げていく姿 ○気付いたことや感じたことを自分の言葉でまとめて伝える姿 ○自分の考えと友達のことを関わらせながら考えて伝える姿 これら3つのポイントを意識し、授業を計画、実践、振り返りを通じて、目標の実現に近づくことができると考える。個性豊かな子どもたちの多様な考えを認め合うと共に、「地域」や「人」と関わりながら学びあう生活科・総合的な学習の時間を充実させることで、目標に迫りたい。	下半期 ○それぞれの教師が、児童の実態の把握に努め、学級の中で児童のよさを引き出すために実践を繰り返してきた。さらに、学年間だけでなく、生活科・総合的な学習の時間の授業を通して、児童が学ぶ具体的な姿を共有することで、学校として児童の実態をつかむ取り組みをしてきた。また、学力・学習状況調査の結果も加味しつつ、確かな学力の定着をはかりながら学習の楽しさを実感できるようにしていきたい。そのために、次の3つに取り組んでいく。 ○興味・関心をもった材に対して、継続的に関わっていくこととする姿 ○気付いたことや感じたことをより広く伝えようとする姿 ○自分と友達のことを照らし合わせて考え、自分の考えの広がりや自信を高めることとする姿 これら3つのポイントを意識し、実践を繰り返していくことで、目標の実現を目指す。さらに、学校全体として児童が安心して楽しく学ぶことができる土壌を深化させていきたい。

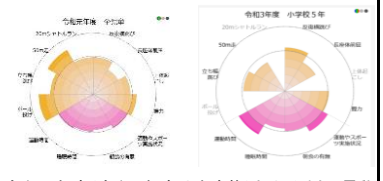
豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①年1回以上道徳の授業について発信する。②異学年集団活動を自主的、意欲的に行うことができるようにする。③多様性を尊重できるような学びの場を計画的に設定する。④自己理解を進め、他者を理解するように系統立てて考えていく。
担当	指導部

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
落ち着いて生活し、学校生活を楽しんでいる児童も多く見られるが、一方で自分に自信がもてず、考えを伝えたり挑戦したりすることに恐れを感じている児童も多いように思われる。自己肯定感や有用感ももてず、ネガティブな考え方を示してしまったり、コミュニケーションに消極的なために人間関係を築きづらかったりする傾向がある。また、自分に直接関係があることなら自分事としてとらえられるが、クラスや学年などの集団になると他人ごとになってしまい、よりよい集団を築こうという気持ちが低い。	「誰もが」「安心して」「豊かに」生活を送れるよう、多様性を認め、個に応じた教育活動をし、児童が互いや自分を認められる気持ちや態度を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 本校では、「多様性を認められる児童や教職員の育成」を目標とし、学校全体で具体的行動プランとして以下の3つに取り組んでいきたい。 ○年1回以上、道徳の授業を公開・発信する。 ○たてわり活動や全校行事などを通して相手意識を高める。 ○国際平和を考える活動や人権教室などを通して、児童や教職員の人権意識を高める。	下半期 各学年の実態に合わせて、12月の人権週間に様々な取り組みを計画する。内容によって、それぞれの分野からアドバイザーを迎え、体験を通して、子どもたちの豊かな心の育成を図る。 また、本校の児童の実態を踏まえ、日々の生活の中で児童の考え方や行動に注目し、自己肯定感やコミュニケーション力の向上につながるような「横浜プログラム」を実施する。児童支援専任や特別支援教育コーディネーターが研修の中でいくつか紹介し、クラスの実態に合わせてすぐに取り組めるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体力・運動能力調査の結果等を保護者と共有するなど、家庭と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図る。②学校保健委員会において各学級の年間の取組から体づくりの大切さについての関心を高める。③給食委員会や栄養士による授業から食生活や健康づくりを考える。
担当	体育・保健安全教育部

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態  <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度(令和2年度は未実施)と比べると、運動能力の低下が見られる。 休み時間に外遊びをしている児童も減少傾向にある。 放課後に習い事等で運動に触れる機会が多い児童と運動をする機会が少ない児童と二極化している様子が見られる。 給食の残りが多かった。(昨年度は給食室改修工事により配達型弁当) (2)これまでの学校の取組状況 ・体育科では、体力向上を目標とし、運動経験を重点として、自ら進んで運動に取り組もうとする意欲を身に付ける。 ・友達とともに運動を楽しむ中で、積極的に助言や褒めることを促し、お互いのよさに気付くようにする。 ・家庭科では、食育との関連を望ましい栄養や食事のとり方を理解できるようにする。 ・運動会では、体育科で培った資質能力をさらに発展させ、自己肯定感や周りの人々への感謝の気持ちを育てようとする。 ・学校保健委員会では、児童の健康面の課題を明確にし、解決に向けて話し合う。 ・安全指導では自ら危険を回避し、安全を確保することができるよう、基礎的な知識を身に付ける。	自分自身の健康・運動課題に関心をもち、自ら解決していこうとする子どもの育成
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 本校では、「自分自身の健康・運動課題に関心をもち、自ら解決していこうとする子どもの育成」を目指し、学校全体で具体的な行動プランとして以下の3つに取り組んでいきたい。 ○体力調査や日常生活をふり返る機会を意図的に設定していく【体育科、特別活動】 ○運動時間を増やしたくなる取組を委員会等を通じて子どもたちとつくりたい【体育科、特別活動】 ○食事や栄養バランスの大切さを食育として伝えたり、給食を残さず食べたいくなる取組を委員会等を通じて子どもたちとつくりたい【体育科、家庭科、特別活動等】	下半期 本校では、「自分自身の健康・運動課題に関心をもち、自ら解決していこうとする子どもの育成」を目指し、学校全体で具体的な行動プランとして以下の3つに取り組んでいきたい。 ○体を動かすことの楽しさを実感できるような機会の設定【体育科、特別活動】 ○体育科学習の活動の充実化、見直し【体育科】 ○食育授業の継続【体育科、家庭科、特別活動等】 これらのことを意識して、活動を計画していくことで、目標にさらに近づけると考える。